

会 議 録

会議名 (審議会等名)		平成19年度 第3回 川西市青少年センター運営委員会		
事務局 (担当課)		教育振興部 青少年センター 内線(4500)		
開催日時		平成20年3月28日(金) 10:00~11:40		
開催場所		川西市青少年センター 研修室		
出席者	委員	村木 修、上馬 勇、田畑晶雄、森田文英、十河眞由美、井上克己、秋田修一、渋谷敏彦、佐伯直樹、稲垣 明、牛尾 巧		
	事務局	松岡寛一、平野圭祐、溝上好弘、上中敏昭		
傍聴の可否		<input checked="" type="checkbox"/> 可・不可・一部可	傍聴者数	0人
傍聴の不可・一部不可の場合は、その理由				
会議次第		開会 1・運営委員の委嘱について 2・会長あいさつ 3・協議事項 (1)平成19年度 川西市青少年センター事業総括 (2)平成20年度 川西市青少年センター事業方針 4・その他() 閉会		
会議結果		協議事項は(案)どおり了承		

〈事務局〉

会議に先立ちまして、青少年センター運営委員会の選出機関であります民生委員児童委員協議会連合会において選出委員の異動がありました。そこで、新たに推薦されました方に、川西市青少年センター運営委員の委嘱辞令を交付しました。なお、お世話になっておりました前委員の方には、「解職辞令」をお渡しさせていただきましたので、ご報告させていただきます。

2、会長あいさつ

桜の花が満開になってきた。この1年間、青少年センターの活動にご尽力頂きありがとうございました。なかなか事態は変わらなく難しさが残ったまま1年が過ぎたわけであるが、ある面では、補導委員を中心に川西の子どもたちの良いすごし方に取り組んでもらい、気づいた子ども達は何人もいる。今回のセンター運営委員会は、一年間の総括と次年度に向けて方針をご報告しご説明しますので、いろいろとご指摘を頂いて、より良い子ども達の生活に向けて取り組んでいけたらと思う。

3、協議事項（1）

〈事務局説明〉

（1）平成19年度川西市青少年センター事業総括

【質疑応答】

（会長）

忌憚のない意見交換をして下さい。

（委員）

説明を受けて思うのが、何が問題なのか、何をしなければいけないかを聞きたい。補導委員として活動をしているがいくつかの問題が表れている。たとえば、かつてはあまり言われなかった子どもの安全について言われるようになってきた。その為、各地域での連携が必要になり活動範囲が広がってきた。また補導委員の選考が難しいのが現状で、夜間の補導はできるが、昼間は仕事などで身動きがとれない。毎月の補導委員定例会で情報交流を行うが昼間仕事がある人は出席できない。サポートセンターとの連携ができていたので、近隣市の状況が入ってきたが、県の財政面の諸事情でサポートセンター職員が削減されたので、状況が入ってこないのではと心配している。センターとしての成果を整理して答えてほしい。

（会長）

事業の実施上の問題、成果をいくつか挙げてほしい。

（事務局）

子どもの安全が入り、活動範囲が広がってきているのは、補導委員会と緊密な連絡を行っているので、センターとしても同じ意識で捉えている。川西は他市に比べて組織がしっかりとしている。活動もしっかりされていると認識している。厳しい状況の中で活動をしている。委員のご指摘のとおりサポートセンターから他市の状況が入ってくるのは難しくなる事が予想されるが、生徒指導担当者連絡会などで補っていきたい。センターとしては、社会からの活動要請があり力相応に取り組んで行くことが必要と思う。今後も補導委員の活動に積極的な連携を図りながら取り組んでいきたい。安全確保については、学校安全協力員の支援をする。補導委員の中には学校安全協力員を兼ねられてる方もおられるので、連携しながら安全確保に取り組んでいきたい。

(委員)

子どもを取り巻くさまざまな問題は両方に抱えている。どこに問題があるか突き止めて行きたい。

(事務局)

事業の成果としては、今年度6月に青少年センターが移転し、川西能勢口周辺の繁華街へすぐに行けるのが利点である。また、10月から朝の街頭補導を実施し数人の生徒への声かけなど関わりがもてたことである。青少年センターだよりをこれまで文字が多かったが、画像をたくさん取り入れ活動状況等がわかりやすくなる様に工夫した。課題としては、学校安全協力員の方が登下校時の見守りをして頂いているので、今後補導委員と関係の充実を図り連携がとれるようにしていきたい。

もう一つは、同じ執務室の教育情報センター相談部門と青少年センターが連携し合っって子どもへの支援を進めていく必要がある。インターネット・ケータイについては、中学校・PTAで取り組みを始めて頂いているので、対応を強化していきたい。

(会長)

県から報告があったようなので、資料として提供してほしい。

(委員)

ケータイは、中学校では不要物扱いになっているようであるが子どもは持っている。学校としてはどの様に捉えているか聞きたい。

(委員)

市内7中学校で多少の差はある。自分の中学校では、4月に保護者へケータイの持ち込みは原則禁止と通知している。但し、日曜日の部活動や塾などで必要であると保護者が判断し依頼がある時は、教師がケータイを預かり下校する時に渡すようにしている。

(委員)

使用方法について指導の必要性はないか。

(委員)

道徳・朝礼などの時に指導をしているが、ケータイの持ち込みは望ましくないので使用方法については積極的にはしていない。中学生に持たせるのは危険の方が多く、持たさないと言う前提なので指導はあまりしていないのが現状である。

(委員)

大変難しさがある。市教委としても重要問題として認識している。小学校で半数・中学校で7割・高等学校では殆ど持っている実態を踏まえた上でどの様にしたらよいか検討していく必要がある。学校だけでは限界があるので、家庭・地域・行政と学校が連携を行っていきたい。子どもに対してのTPOにおいては親の協力が必要である。学校では啓発をするのが精一杯である。ゲーム絡みから発生する命の問題に苦慮している。総力を挙げて取り組んでいかなければいけない。啓発だけではすまないのので、学校・家庭・地域・行政・PTA等が取り組むことで機動力になれば有り難い。

(会長)

ケータイの件については、PTCA青少年フォーラムでも論議された。高等学校での指導を聞きたい。

(委員)

中学と殆ど同じであるが、少し高校の方が緩い。市内全日制県立高校3校で持ち込みは禁止としている学校もある。本校は持ち込みを認めている。使用については、授業中禁止としていたが、新年度からは、登校時から下校時まで使用を禁止にする。県内の高等学校でも重大な問題として捉えている。3月上旬に生徒指導教員・教頭・校長が一堂に集まり研修会で講演を聴いた。講演では、パソコンにおけるインターネットとケータイによるインターネットは別物である。パソコンにおけるインターネットは画面が大きく周囲が見守れる。しかしケータイによるインターネットは使用を周囲が見守ることができない。正にケータイの中で生活している。中には生きるためにお金を稼ぐ事をしている。親・学校が知らない事が多い。そもそも持たせることが間違いであり学校でできることは殆ど無く、家庭の協力を浸透させ認識を変えなければならないと話されていた。

(委員)

一昨年・昨年と中学校の地区別懇談会に参加した。ケータイの話題が出て、参加者50名の内17名が持たしていた。実際は中学生で7割持っていると思う。いつ持たせたらいいのか。根拠なしに高校になったら持たすと言う保護者も多い。使い方については、親は連絡事項を前提に持たすと思っているが、子どもはメールが殆どである。使用状況において根深い問題があり親の思いとの違いが大きい。電車の中では殆どがケータイや化粧など、社会的にも容認している雰囲気の中で危険と対立している。学校では限界がある。保護者は電話代が高いので困っている。業者はプラン設定を提案し営業を行っている。最近の風潮として連絡はメールで行うので言葉の交わしあいが少なくなっていることが気になる。

(会長)

警察で事例があれば聞きたい。

(委員)

女子がメールで知り合った友達に自分で撮った入浴中の写真をばら撒かれた事案があった。防犯と犯罪の面で難しい。

(委員)

中学からお願いがある。中学生の間は、ケータイを校内に持ち込む事は間違いである事を世論に広げていただきたい。

(委員)

保護者の問題でもある。中学校の生徒指導の先生が中心になり、中学2年生を対象にケータイ電話のアンケート調査をした事を聞き、PTAも同様に実施した。今、集計中である。保護者と子どもの意識のずれがどの様なものか見たい。今後は中学2年に限らず全体に広げて啓発をしたい。先日、中学1年生10人と話をする機会があった。ケータイを持っている生徒が8割でメールをしていた。ブログ・HP・書き込みをされた生徒が1~2人いた。メールで何かを伝えたいようであるが思いは口で伝える事が良いと話をした。他人の子とは、この様な話ができるが我が子にはどうかと考える。子どもは悪いとは思っていない。どんな事に発展するか考えていないので、単にダメでは子どもに入っていない。親は、ケータイがなければ、いじめられると言う強迫観念の中で恐れているのが真意でもある。学校が困っていることを保護者がわかっていない事が多いのもっと情報を発信して欲しい。委員会でもPTAとの懇談会をしている。

学校と役割分担をしていき協力をして行きたい。

(会長)

青少年センターがどういう役割ができるのか検討し取り組んでほしい。

(委員)

命に繋がることは心を鬼にし伝えていかなければならない。事例を伝えて自分の身体は自分で守る意識を徹底したい。センターだよりなど様々な活動の様子が出されているのでファイルなどに入れて保管しておいてほしい。補導委員の方の活動の様子がわかるので感謝している。

(2) 平成20年度 川西市青少年センター事業方針について

〈事務局説明〉

【質疑応答】

(会長)

しておきたいことなどがあれば意見を聞きたい。

(委員)

伊丹市で保護司会・補導委員会の研修に参加した。他団体との行動連携が行われていた。情報交換とともに協力して活動ができて良かった。川西市も各地域でキャンペーンなどの活動ができれば良いと思う。ぜひ検討していただきたい。

(事務局)

非行防止キャンペーンなどについては宝塚市と合同で行っている。

(委員)

川西市は、社会を明るくする運動など一部の役員の方だけなので、役員以外の多くの団体の方々が参加し活動を広げて行ってほしい。

(事務局)

働きかけて行きます。

(会長)

ぜひ 提案して新しい形で具体化して行ってほしい。他に意見をお願いしたい。

(委員)

家庭で子どもと話をすることが少ないのでは、又はできないのかなと思うことがある。守らなければいけないことができていない事はないか。例えば玄関の靴をとってもしきちんと揃えることを家庭で躾けられない事がある。親が子どもへ話題を提供しないといけない。家庭のことを学校へ押し付ける事が多く先生が悩んでいる。親になる自覚がもてるような啓発をしていかないといけないと思うときがある。地域・学校が悪いと言われる一因に家庭の責任も考えられる。

(会長)

委員から4つの力について話を頂いた。できる人ができるところでやっていくのが必要であるというご指摘であると思う。他に意見をお願いしたい。

(委員)

ヒューマンコミュニケーションとしてマナー教室の講師で大阪府の高校へ行っている。礼儀作法を教えることで相手を思いやる心が育ちコミュニケーションができる家庭が育つ。川西市でも必要とされればマナー教室を行いたいと思っている。

(会長)

来週末で退任することになりました。いろいろとお世話になりました。公務の最後がセンター運営委員会となりました。教育委員会に来て、また教育長として、プラスに見て行きたいと思いつけてきた。マイナスではなく極力良いところを見て行きたいと考えてきた。しかし、事態は甘くない。大人の責任として考えたい。いい人とめぐり合い、いい仕事ができたと自負している。ありがとうございました。

4. その他

組織変更について事務局から報告をした。

閉会